

<2002年>

「寒椿」

今成田は空風の中で「寒椿」が咲き誇っています。朝晩、渋滞する 295 号線の脇に咲いているこの花を眺めながら、アフガニスタン関連のニュースに耳を傾けていると、何かじっとしてはいられない様な気持ちになって来ます。開くる 2002 年が日本にとっても、日航グループにとっても良い年でありますように祈りつつ、「かんづばき」を織り込んで狂歌を作つてみました。

神垣の カンダハルにも 鶴往かむ
羽ばたく峰の 霧も晴るれば

<2003年>

「福寿草」

寒風吹き荒ぶ頃になると、我が家の大玄関脇の福寿草が芽吹き始めます。今年 JALTAM は創立 20 周年を迎えます。航空機整備に夢を託し入社した若者達は、今カンパニー制の理念のもとで日々技量を磨き、資格に挑戦しています。JALTAM 社員のこの熱き心を「ふくじゅそう」に織り込んで狂歌を作つてみました。

風雪と 枯ち葉の下で 修行せし
壯者の夢や うたた尊し

<2004年>

「露のとう」

同時テロの傷が癒えぬまま、昨年はイラク戦争、SARS により航空業界は再び大きな打撃を受けました。賛否は別にして、今後日本が国際社会に深く関わることとなる以上、航空業界にとって冬の時代がもう暫く続くのかもしれません。奇しくも今年は明治の日本が国際社会にデビューする契機となった日露戦争が始まって丁度 100 年目に当ります。「失われた 10 年」の日本が再び国際社会で輝きを取り戻すには、「坂の上の雲」に向かって歯を食いしばって頑張った明治人のひたむきさを思い出す必要があるのではないでしょうか。まだ認定事業場として歩み始めたばかりの JALTAM も、今年はこのひたむきさを忘れずに頑張りたいと思います。極寒の雪中で、春に備え芽吹く「露のとう(ワキタウ)」にこの気持ちを織り込んでみました；

不羈不屈 鍛えぬかれし 伸び盛り
TAMの未来は うらら春風

<2005年>

「おおぐま座」

友人といい酒を飲み、寒風に身を晒しながら家路を急ぐとき、ふと見上げると満天の星に驚くことがあります。中でも一番目に付くのは「おおぐま座」の一部にあたる“ひしやく”の形をした北斗七星ではないでしょうか。道に迷ったとき北極星を探す極めて分かりやすい手がかりとしても有名です。JAL グループの整備が大きな転換期を迎えようとしている今、知識欲に燃え、やる気満々の若手整備士に、世代の異なる我々が何を道標に「整備のこころ」を伝えていくか、模索を続けている毎日です。“おおぐまざ”を読み込んでこの心境を歌にしてみました；

折鶴の 尾根の献花に 眇めいて
誠の整備 授けるや難し

(注) 「尾根」とは「御巣鷹山の尾根」を意味します